

地域再生計画

1. 地域再生計画の名称

公共交通の利用しやすいまちづくり「瀬戸内市 J R 駅前等整備プロジェクト事業」

2. 地域再生計画の作成主体の名称

瀬戸内市

3. 地域再生計画の区域

瀬戸内市の全域

4. 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

本市の人口は 36,285 人（平成 27 年国勢調査）であり、平成 12 年をピークに減少傾向にある。65 歳以上の老年人口は平成 12 年以降増加傾向にあり、平成 27 年時点での高齢化率は 32.7% となっており、平成 37 年には 36.2% にまで上昇すると予測されている（図-1 参照）。

また、就業人口は平成 7 年をピークに減少に転じ、人口の減少傾向と同様の推移を示している（図-2 参照）。

市民の勤務先は、市内で働く人は約 5 割程度であり、約 3 割（約 5,600 人）の人が岡山市に働きに出ている（図-3 参照）。

公共交通機関としては J R 赤穂線が通っており、姫路方面と岡山方面を直通で結ぶ運行がされているほか、路線バス、フェリー、タクシー、スクールバスが運行されている。

J R 赤穂線では、大富駅、邑久駅、長船駅の 3 駅が設置されており、大富駅の利用者数は微増傾向にある一方、邑久駅及び長船駅の利用者数は最近の 5 年間でほぼ横ばいの状況である（図-4 参照）。

路線バスは市内に 7 路線あり、スクール便としての機能を有する上山田線、西脇線を除く 5 路線は、各集落と交通結節点である J R 長船駅、J R 邑久駅とを結ぶ経路となっている。

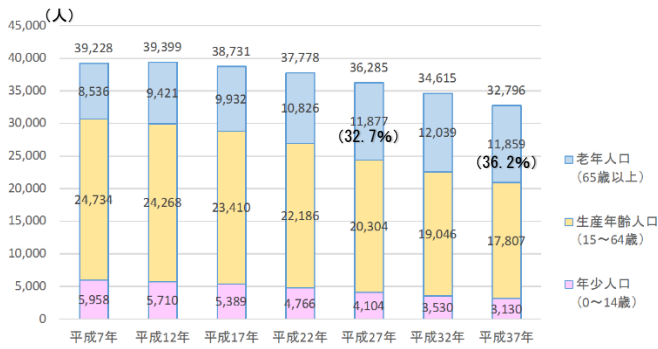


図-1 人口（総人口、年齢3区分別）



図-2 就業人口

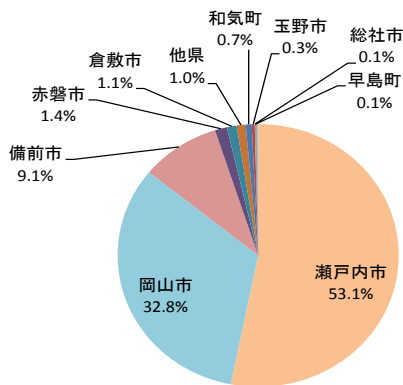


図-3 市民の勤務先 資料：2010(平成22)年国勢調査

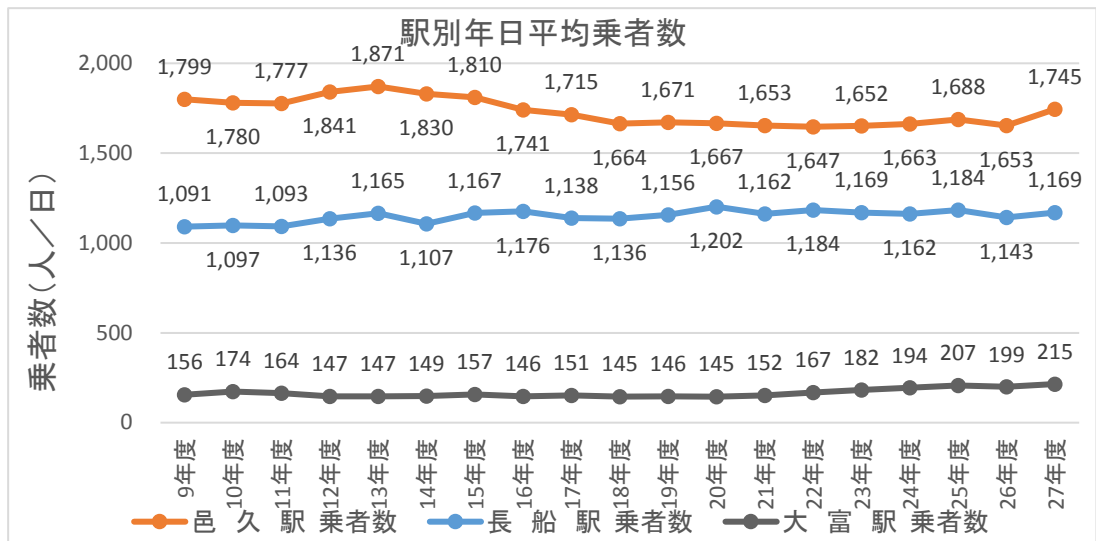


図-4 駅別年日平均乗者数（邑久・長船・大富駅）

資料：岡山県統計年報、西日本旅客鉄道(株)

4-2 地域の課題

前述のとおり、本市における就業構造としては就労者の約3割が岡山市へ通勤しており、それに合わせた鉄道、バスといった公共交通も整ってはいるが、公共交通機関の利用者数は伸び悩んでおり、本市の玄関口である大富駅、邑久駅及び長船駅周辺はまちとしての賑わいを失っている状況である。

平成26年度に本市が実施した「市民まちづくり意識調査」では、「公共交通機関が利用しやすいと思うか」という問いに対して、「そう思わない」と回答した割合が72.0%を占めており、その要因としては以下の理由が挙げられる。

ア 大富駅

- ・回転場が無く自動車送迎に不便なこと
- ・駅改札の出入り口が階段のみでバリアフリー化されていないこと
- ・トイレが非水洗であること 等

イ 邑久駅及び長船駅

- ・送迎車用の十分なスペースが無いため、特に雨天時は駅前が非常に混雑し人と車が交錯し危険であること
- ・駅前広場として公共交通と駅の乗継環境が悪く、路線バス・タクシーの乗降場が整備されていないこと
- ・駅トイレは非水洗で匂いがあり男女共同であること
- ・駐輪場が通勤通学時に多く利用されているが屋根がないため悪天候時の利便性が低いこと
- ・駅構内や駅前広場に公共交通の情報が乏しく、来訪者・利用者が公共交通を利用しにくいこと 等

これらの課題は、市内外へ通勤・通学する市民や移動手段が限られている高齢者だけでなく、ビジネス・観光等により本市を訪れる方々にとっても重要な問題であり、移住・定住促進、産業振興、観光振興等の地方創生施策を進める上で根幹となる課題である。

4-3 計画の目標

本計画は、駅前への回転場の新設、乗降場の設置、駅構内のバリアフリー化、トイレ整備等を通じて、市民の重要な公共交通手段であるJR赤穂線の大富駅・邑久駅・長船駅の利便性を向上させ、市の玄関口としてふさわしい駅前を整備するものである。

これにより、通勤・通学者及び来訪者等が利用しやすい、環境にやさしいまちを創出し、市のイメージアップ、観光振興、歴史・文化資源・日本最大級の太陽光発電などの地域の魅力発信、さらには市内企業の産業振興を図る。

【数値目標】

事業	瀬戸内市 J R 駅前等整備プロジェクト事業		年 月
K P I	J R 3 駅乗車人員 (人/日・年平均)	朝ピーク時間 (6:30-9:40)乗降者数	
申請時	3,129 人(H27)	2,110 人(H28)	H29.3
初年度	3,100 人	2,100 人	H30.3
2 年目	3,100 人	2,100 人	H31.3
3 年目	3,100 人	2,100 人	H32.3

5. 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

市民の主要な公共交通手段である J R 赤穂線の大富駅・邑久駅・長船駅前等において、公衆トイレ、駅前広場、駐輪場、市道拡幅等の整備を行うことにより利便性を向上させ、通勤・通学者や市外からの来訪者が利用しやすい環境づくりを行う。

また、「市の玄関口」として駅周辺をリニューアルすることにより、市のイメージアップに繋げ、観光振興、歴史・文化資源・太陽光発電等の地域魅力発信、市内企業の産業振興を図る。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

(1) 事業名：瀬戸内市 J R 駅前等整備プロジェクト事業

(2) 事業区分：まちづくり

(3) 事業の目的・内容

(事業の目的)

本市は、現在人口約 3.6 万人（平成 27 年国勢調査）、高齢化率 32.7%であり、平成 12 年をピークに人口は減少傾向となる一方、高齢化率は高くなっている。同様に、就業人口も減少傾向を示している。

就業先は市内が約半数であり、就労者の約3割が隣接している岡山市へ通勤しており、それに合わせた鉄道、バスといった公共交通も整ってはいるが、公共機関の利用者は伸び悩んでおり、本市の玄関口であるJR赤穂線の大富駅、邑久駅及び長船駅周辺はまちとしての賑わいを失っている状況である。

平成26年度市民まちづくり意識調査においては、「公共交通機関が利用しやすいと思うか」という問いに対して、「そう思わない」と回答した人が72.0%となっている。その要因として、大富駅では、回転場が無く自動車送迎に不便なこと、駅改札の出入り口が階段のみでバリアフリー化されていないこと、トイレが非水洗で匂いがあること等が挙げられる。また、邑久駅及び長船駅では、自動車送迎用のスペースが狭い、路線バス・タクシーの乗降場が整備されていない、トイレが非水洗で匂いがある、駐輪場の屋根がなく利用しにくい、駅構内や駅前広場に公共交通の情報が乏しく、来訪者・利用者が公共交通を利用しにくい等の要因が挙げられる。

このような状況の中、本事業は市民の重要な公共交通手段である大富駅・邑久駅・長船駅の利便性を向上させ、市の玄関口としてふさわしい駅前を整備するものである。これにより、通勤・通学者及び来訪者等が利用しやすい、環境にやさしいまちを創出し、市のイメージアップ、観光振興、歴史・文化資源・日本最大級の太陽光発電などの地域の魅力発信、さらには市内企業の産業振興を図ることを目的とする。

(事業の内容)

市民をはじめ、ビジネス・観光等で本市を訪れる方々の主要な公共交通手段であるJR赤穂線の大富駅・邑久駅・長船駅の駅前等において、次のとおり公衆トイレ、駅前広場、駐輪場、市道拡幅などを整備する。

【3 駅共通の内容】

- ・公衆トイレの整備（水洗化、男女別、温水式洗浄便座の設置等）。
- ・駅前広場の整備（歩車分離、歩道シェルター、ロータリー化、乗降場の設置等）。
- ・駐輪場の整備（上屋、ラック、防犯カメラの設置等）。

【大富駅】

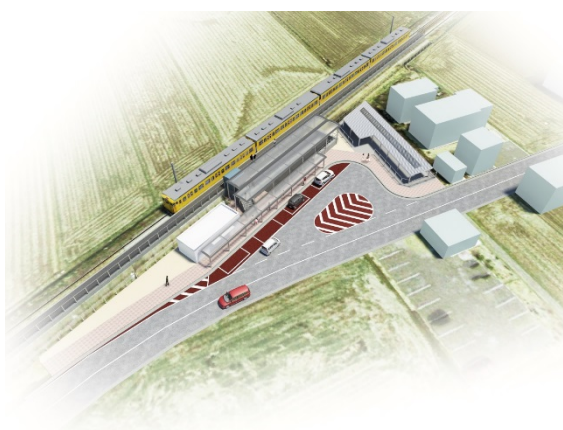
- ・駅構内のバリアフリー化。
- ・駅前の市道拡幅。

【邑久駅】

- ・観光案内を行う施設及びモニュメント（雪ん子像）広場の整備。
- ・パークアンドライド駐車場の整備。

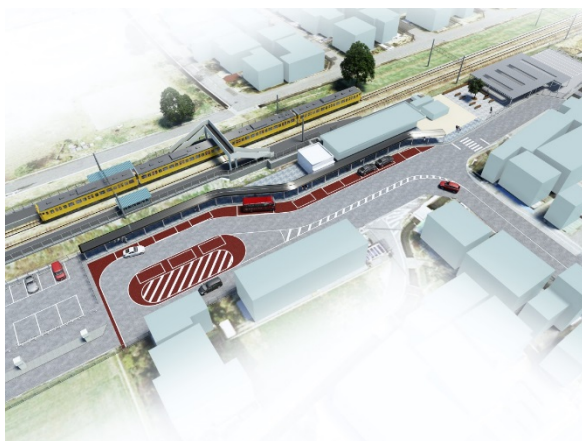
【長船駅】

- ・既存公園を再整備。
- ・観光案内を行う施設の整備。
- ・パークアンドライド駐車場の整備。



【大富駅 整備イメージ図】

【邑久駅 整備イメージ図】



【長船駅 整備イメージ図】

(各年度の事業の内容)

【大富駅】

- 初年度) 地質調査、詳細設計及び用地測量
- 2年目) バリアフリー化、市道拡幅、用地測量及び用地買収
- 3年目) トイレ整備、駅前広場整備、駐輪場整備及び電柱支障移転

【邑久駅】

初年度) 地質調査、詳細設計及び用地測量

2年目) トイレ整備、駅前広場整備、用地測量及び用地買収

3年目) 駐輪場整備、観光案内施設整備、パークアンドライド駐車場整備、
モニュメント整備及び電柱支障移転

【長船駅】

初年度) 地質調査、詳細設計及び用地測量

2年目) トイレ整備、駅前広場整備及び用地測量

3年目) 駐輪場整備、観光案内施設整備、パークアンドライド駐車場整備、
既存公園の再整備及び電柱支障移転

(4) 地方版総合戦略における位置付け

本市の「瀬戸内市太陽のまち創生総合戦略」においては、基本目標 4 として「時代に合った地域づくりができ、安心して暮らせるまち」を掲げ、具体的な施策として、「(1) 時代に合った住環境の整備を定め、拠点間における移動手段として公共交通の充実・活性化を進める」としている。

また基本目標 2 として「このまちにまた来たい」、「このまちで家族と暮らしたい」と思われるまちを掲げ、具体的な施策として、「(2) 移住・定住の促進を定め、環境にやさしいまち、公共交通網の整備などまちの魅力を向上させ移住・定住の促進を進める」としている。

これらの目標に対する重要業績評価指標 (K P I) として「計画的に土地利用が進められていると思う市民の割合」を 27.2%から 37.2% (H31) に、「公共交通機関が利用しやすいと思う市民の割合」を 22.5%から 32.5% (H31) に、「住みやすいと感じる市民の割合」を 66.7%から 76.7% (H31) に向上させることとしており、本事業は、これらの目標達成に直接寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標 (重要業績評価指標 (K P I))

事業	瀬戸内市 J R 駅前等整備プロジェクト事業		年 月
K P I	J R 3 駅乗車人員 (人/日・年平均)	朝ピーク時間 (6:30-9:40) 乗降者数	
申請時	3,129 人 (H27)	2,110 人 (H28)	H29.3
初年度	3,100 人	2,100 人	H30.3

2年目	3,100人	2,100人	H31.3
3年目	3,100人	2,100人	H32.3

(6) 事業費

(単位：千円)

内訳 \ 年度	H29	H30	H31	合計
事業費計	83,200	550,000	850,000	1,483,200
委託料	83,200	65,000	0	148,200
工事請負費	0	404,000	838,000	1,242,000
補償補填及び賠償金	0	81,000	12,000	93,000

(7) 申請時点での寄附の見込み

(単位：千円)

年度		H29	H30	H31	合計
事業費計		83,200	550,000	850,000	1,483,200
寄附額計		100	0	0	100
寄附法人	医療法人 青木内科小児 科医院	100	0	0	100

(8) 事業の評価の手法（P D C Aサイクル）

(評価の手法)

事業のK P IであるJ R 3駅の乗者数（人／日・年平均）について、実績値を公表する。また、「産官学金労言」により構成される本市の有識者委員会「瀬戸内市太陽のまち創生有識者会議」において事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

(評価の時期・内容)

毎年度7月に「瀬戸内市太陽のまち創生有識者会議」による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針に反映させる。

(公表の方法)

目標の達成状況については、検証後速やかに瀬戸内市ホームページで公表する。

(9) 事業期間：平成 29 年 7 月～平成 32 年 3 月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生方針に基づく支援措置
該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 地域公共交通網形成計画の事業

事業概要：平成 28 年 3 月に策定した地域交通が支える持続可能で活気あるまちづくりを目指す「公共交通網形成計画」において、公共交通不便地域に居住する人が、14,000 人（人口の約 38%）を超える状況を改善させるため、新たな地域内交通として、①事情に応じた「タクシー活用制度」、②「市営バス」、③交通乗継拠点及び地域拠点で路線バスとの乗継ぎなどの検討を進めている。また、市街地内の駅間を結ぶなどの循環するバス路線の導入についての検討を予定している。

実施主体：瀬戸内市

事業期間：平成 29 年度～平成 31 年度

6. 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 32 年 3 月 31 日まで

7. 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

事業の K P I である J R 3 駅の乗者数（人／日・年平均）について、実績値を公表する。また、「産官学金労言」により構成される本市の有識者委員会「瀬戸内市太陽のまち創生有識者会議」において事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

毎年度 7 月に「瀬戸内市太陽のまち創生有識者会議」による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針に反映させる。

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに瀬戸内市ホームページで公表する。